

レビュー研究用フォーム		データ記入欄		
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫		
	タイプ			
タイトル情報	論文の英語タイトル	Prognostic factors for survival of patients treated systemically for disseminated melanoma.		
	論文の日本語タイトル			
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）		
	ガイドライン上での目次名称	CQ18－11		
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ II ）		
	Pubmed ID			
	医中誌 ID			
	雑誌名	J Clin Oncol.		
	雑誌 ID			
	巻	16		
	号	3		
	ページ	1103-11		
	ISSN ナンバー	0732-183X (Print)		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）		
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）		
	発行年月	1988		
	著者情報		氏名	所属機関
		筆頭著者	Eton O,	Department of Melanoma/Sarcoma, The University of Texas M.D. Anderson Cancer Center, Houston 77030, USA.
その他著者 1		Legha SS,		
その他著者 2		Moon TE,		
その他著者 3		Buzaid AC,		
その他著者 4		Papadopoulos NE,.		
その他著者 5		Plager C, et al		
その他著者 6				
その他著者 7				
その他著者 8				
その他著者 9				
その他著者 10				

レビュー研究の6項目	目的	肝動注の臨床効果を調べる
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	318 例の病期 IV 患者の予後因子の解析：単変量解析では、LDH, アルブミン、転移部位（軟部組織）、1 臓器の転移、性（女性）、最近の患者、が予後に関連していた。多変量解析では化学療法の有無は予後に影響せず。CR は 4 %のみ。2 年生存率は 1 1 %。
	結論	臨床試験のエントリー時には、良い予後因子である転移部位（軟部組織）、1 臓器の転移、LDH、アルブミン値について層別化の必要である。
レビューワーコメント	備考	
	レビューワー氏名	宇原
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（II ） 予後因子に関する重要な研究である。皮膚、軟部組織、肺以外の内臓転移では、1 臓器のみの転移であれば生存期間中央値は 9 ヶ月と記載されている。